

af News

平成26年度 研究助成金贈呈式

旭硝子財団は、6月2日午前、関係者列席のもとに経団連ホールにて研究助成金贈呈式を開催しました。田中理事長による開会の挨拶、宮崎照宣選考委員長による選考経過の説明に続いて、理事長から助成金受領者の方々へ贈呈状が手渡されました。引き続き、合田哲雄・文部科学省研究振興局学術研究助成課長よりご祝辞をいただきました。最後に、助成金受領者を代表して後藤由季子・東京大学教授からご挨拶があり、贈呈式を終えました。

その後、別会場で懇親パーティーが行われました。昨年度より募集対象を高等専門学校にも広げ、本年も新たに1件が採択されました。国内で新規に採択された助成研究は83件、これに過年度からの継続分24件を合わせ、国内の研究助成総額は2億5,600万円です。
本年度に新規採択された助成研究については、当財団のホームページ[研究助成→採択一覧]をご参照ください。



田中理事長による贈呈状の授与



受領者代表
後藤由季子 東京大学教授



第23回ブループラネット賞 受賞者紹介

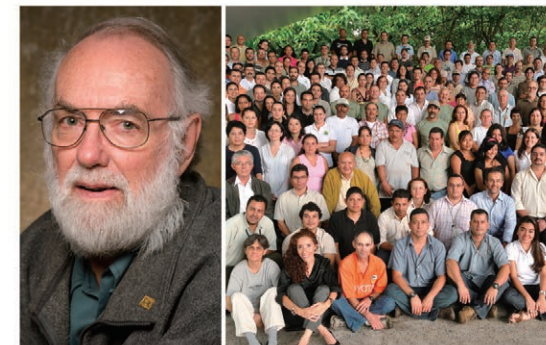
旭硝子財団は、地球環境問題の解決に向けて貢献をした個人または組織に対して、その業績を称える地球環境国際賞「ブループラネット賞」を1992年に創設し、以来毎年2件の表彰を継続しています。

ハーマン・デイリー教授 (米国)
メリーランド大学 公共政策学部名誉教授



【受賞理由】
“定常状態の経済学”をサステナビリティの理念のもとに再定義し、環境経済学の礎を築きました。経済成長は人類の幸せに繋がっているかを問い、経済成長に偏重しがちな世界に警鐘を鳴らし大きな影響を与えてきました。

ダニエル・H・ジャンゼン教授 (米国)
ペンシルベニア大学 生物学科教授
コスタリカ生物多様性研究所 (コスタリカ)



【受賞理由】
ジャンゼン教授とコスタリカ生物多様性研究所 (IN-Bio) は、地域社会とその周辺に広がる自然環境の保全を調和させ、持続可能な開発に関する諸政策を提言し、生物多様性の保全と環境教育を推進してきました。これらの活動は、先進国・途上国を問わず世界の国々にとって貴重で学ぶ価値のある模範例になっています。

第23回ブループラネット賞 表彰式典 ならびに 受賞者記念講演会

第23回受賞者を迎え、11月12日(水)に表彰式典をパレスホテル東京で開催いたします。翌13日(木)には、受賞者記念講演会を国際連合大学ウ・タント国際会議場で開催いたします。講演会へのご参加を希望の方は、10月10日(金)までに財団ホームページの申込みフォームよりお申込みください。応募者多数の場合には抽選になります。当選者には参加証ハガキをお送りいたします(10月24日頃発送予定)。

- 【受賞者記念講演会プログラム】
- 13:20 開会・主催者挨拶
 - 13:25 - 14:30 記念講演 ハーマン・デイリー教授
質疑応答コーディネーター：枝廣淳子氏(幸せ経済社会研究所所長)
 - 14:50 - 16:20 記念講演 ダニエル・H・ジャンゼン教授、コスタリカ生物多様性研究所
質疑応答コーディネーター：矢原徹一教授(九州大学大学院理学研究院教授)
 - 16:20 閉会



昨年の記念講演会の様子

公益財団法人 旭硝子財団

〒102-0081 東京都千代田区四番町 5-3
サイエンスプラザ2階
TEL (03) 5275-0620 FAX (03) 5275-0871
URL <http://www.af-info.or.jp>
E-MAIL post@af-info.or.jp

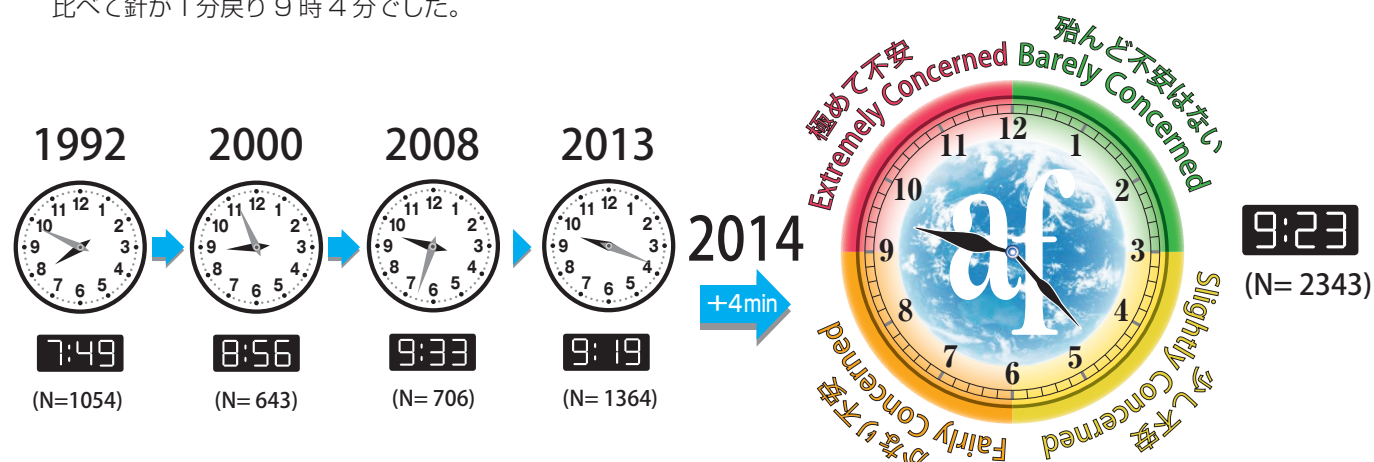
— 環境問題に携わる世界の有識者の認識 —

第23回「地球環境問題と人類の存続に関するアンケート」調査結果

旭硝子財団は、環境問題に携わる世界の有識者を対象に、環境問題に対する様々な取り組みに関する意識調査を1992年以来継続して行っています。2014年4月～6月に実施した調査の中から「環境危機時計®」について報告します。調査結果はホームページ(<http://www.af-info.or.jp/>)にも掲載しておりますので、ぜひご参照ください。(アンケート回収数 2,343 (うち国内 460, 海外 1883), 回収率 9.78%)

✦ 人類存続の危機に対する認識「環境危機時計®」 ✦

2014年の環境危機時計®の世界平均は昨年度の9時19分から4分進み9時23分を記録しました。日本は前年に比べて針が1分戻り9時4分でした。



顕彰事業の理解促進および協力者拡大の活動

旭硝子財団は顕彰事業を広く国内外で知ってもらい、ブループラネット賞のノミネーターや環境アンケート回答者を拡大するとともに、環境問題に対する一般認識の向上を図っています。

2月には2,000名以上の科学関係者が参加するアメリカ科学振興会(AAAS)の総会に出席し、ブース展示を行いました。ブループラネット賞や推薦の方法などに関し多くの質問を受けて説明を行いました。環境アンケートに対しても興味を持つ



AAAS総会会場(シカゴ)にて

参加者が多く、また環境危機時計®の新しいキャラクター(ぐりんとウッドン)の冊子は特に教育関係者の注目を集め、財団の活動に対する一般認知の拡大に寄与しました。

3月には、ローマクラブ共同議長のErnst Ulrich von Weizsäcker博士と打合せを持ち、ブループラネット賞の世界の認知度の拡大について協力要請を行いました。



Ernst Ulrich von Weizsäcker 博士

2014 旭硝子財団 助成研究発表会 (国内)

7月30日、ホテルグランドヒル市ヶ谷において、助成期間を終えた研究プロジェクト72件の成果発表、ならびに助成期間中の大型研究プロジェクト14件の中間発表が行われました。発表者をはじめ、当財団の選考委員、ご来賓、さらには現在研究助成を受けている研究者など、多くの関係者にご出席いただきました。開会にあたり、田中理事長の挨拶に引き続き、宮崎照宣選考委員長(東北大学名誉教授)から開催にあたっての趣旨説明が行われました。その後、専門分野ごとに夕方まで3つのセッションに分けて、3分間スピーチ

とポスターによる研究発表が行われました。

それぞれのポスターの前では、専門分野の異なる研究者が集まって活発な意見交換が行われました。得られた成果についてだけでなく、今後どのような方向に研究を進展させるべきかといったことについて幅広くディスカッションが行われ、新たな学術協同関係が生まれるなど、大変に有意義な場となりました。

発表終了後には同じ会場で懇親会が開かれ、参加者の方々による交歓が行われました。



田中 鏡二 理事長



宮崎 照宣選考委員長



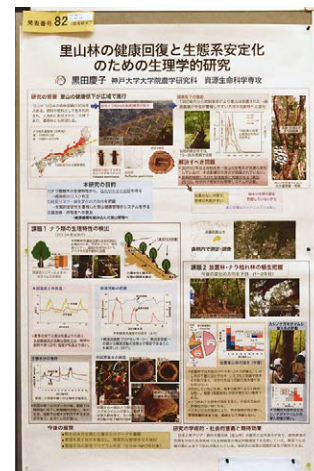
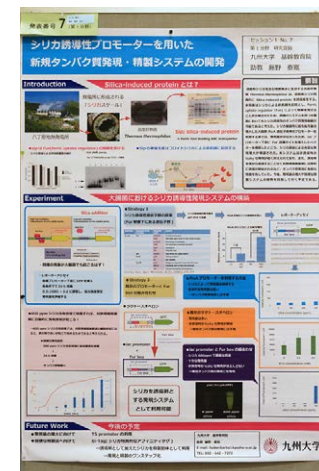
3分間スピーチ発表会場



懇親会で挨拶する
遠藤剛 前選考委員長



ポスター発表会場



研究発表ポスター

海外研究助成金贈呈式ならびに研究成果発表会

タイ・チュラロンコン大学(CU)



Mongkol 副学長、田中理事長、助成金受領者と関係者



田中理事長による贈呈状の授与



セミナーでの発表

6月24日、チュラロンコン大学のMaha Chulalongkorn Buildingにおいて、研究助成金贈呈式と成果発表会が開催されました。田中理事長とMongkol副学長からの挨拶に続いて、今年度の助成対象者10名に贈呈状の授与が行われました。セミナーでは、Tharapong Vitidsant教授によるタイにおけるニューバイオディーゼル燃料の開発に関する記念講演に引き続き、3つのセッションに会場を分けて、合計14件の研究成果が発表されました。

インドネシア・バンドン工科大学(ITB)

8月20日、バンドン工科大学の講堂において、研究助成金贈呈式と成果発表会が開催されました。学長のAkhmaloka教授、安達専務理事の挨拶に続いて、助成対象者16名に贈呈状が授与されました。引き続き、研究期間を終了した17件のプロジェクトの研究成果発表が行われました。



Akhmaloka 学長による挨拶



Akhmaloka 学長、安達専務理事と助成金受領者



安達専務理事による贈呈状の授与



研究成果発表会でのプレゼンテーション

タイ・キングモンクット工科大学トンプリ校(KMUTT)

6月25日、キングモンクット工科大学トンプリ校において、研究助成金贈呈式と成果発表会が開催されました。Bundit Fungtammasan 副学長による選考経過の説明と挨拶、田中理事長からの挨拶に続いて、2015年から3年間にわたる新たな助成プロジェクトの覚書が取り交わされました。

新規助成対象者5名のパネルによる研究予定内容の紹介や贈呈状の授与が行われ、その後、過年度の助成対象者7名の研究成果が発表されました。



Fungtammasan 副学長と田中理事長によるMOUの取交し



田中理事長による贈呈状の授与



Fungtammasan 副学長、田中理事長、助成金受領者と関係者